

K I S H U I C H I K A W A N I I G A T A K A T S U T A O S A K A N A G A O K A

KINKON

2023 冬
vol.20

ZERO
CO₂
2050™



HOKUETSU

北越コーポレーション

KINKONは、当社工場の地名の頭文字を組み合わせ、お客様を訪問する際のチャイム音「キンコン♪」をイメージした、当社の環境活動通信誌です。

ZERO
CO₂
2050™

森を育て、森を守り、 地球環境に貢献します



そでがわ 岩手県 外川社有林

外川社有林は1937年から現在に至るまで80年以上管理している森林で、アカマツとカラマツを主体とした針葉樹と広葉樹がバランスよく分布しています。

2003年にFSC®-FM認証を取得し、維持継続しています。また、生物多様性に配慮した森林として自然共生サイト※に登録を申請中です。

※令和5年度から環境省が「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」に認定する仕組み。



北越グループの社有林

北越グループは、国内外合計で約641万haの森林を管理しています。国内で管理している面積は約12,170ha(東京ドーム約2,580個分)で、このうちの4分の1に相当する約3,050haは岩手県の外川、藪川、丸泉寺など6カ所にあり、持続可能な森林経営に取り組んでいます。今回のKINKONでは当社グループ国内で最大の面積を有する岩手県内の社有林を例にとり当社の森林経営について紹介します。

■持続可能な森林経営

当社は、森林の保全と利用を両立させながら森林に求められる多様なニーズに継続して対応できるよう管理しています。育った木を計画的に伐採して建材、合板材あるいはチップ材として利用。伐採後は再び植林を実施し、世代交代を図って木材資源を持続的に生産するという循環型林業を行っています。

伐採跡地には、土地の気候や土壌に適した樹種を植林します。岩手県内の社有林では寒冷地に適したカラマツを植林し、計画的な保育によって幼木がスクスクと育っています。

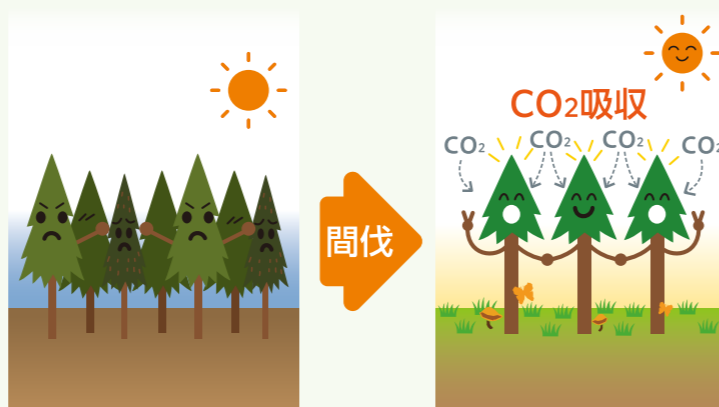


■CO₂吸収

樹木は成長とともにCO₂の吸収が増えていきますが、木の間隔をあけて日光が入るようにしないと成長が抑制されCO₂の吸収量は減少します。必要な間伐を計画的に行うことで森林には適度に日光が差し込むようになり、木々の成長が促進されてCO₂の吸収量も増加します。

北越グループの国内にある管理森林における2021年度CO₂吸収量は、約11,000t/年*です。

*CO₂の算定方法は、2023年統合報告書P26をご覧ください。



■豊かな生態系

生物多様性の保全に配慮し管理された外川社有林では、さまざまな草花やキノコ類が見られます。そのほか森林に生息する昆虫類、両生類、鳥類なども種類が多く、ツキノワグマやニホンジカなどの動物も確認されています。また、森林内を溪流が流れており、水生植物や魚類なども見られます。



頼もしい森林整備の担い手 (有)白樺林業 代表取締役 白樺誠一さん

北越コーポレーション(株)の計画に基づいて、森林の手入れをしています。実際の作業としては幼木を守るための下刈り、幼木の間引きを行う除伐、目的とする木を育てるための枝打ちや間伐など、植林後の年数や成長具合に合わせた手入れを行っています。また伐採は手入れ作業のない、冬に行う事が多いのですが、積雪は約1m、気温は-20℃にもなる為、厳しい自然との闘いとなります。

山は、手入れをすればするほど良くなっていきます。また、適切に維持管理されていくことで、山の機能は持続可能になります。この地に生まれ、山を生業として生きていく使命を、日々新たに感じています。

今、行政の支援もあり、林業に携わる女性を含め若い人たちが育っています。彼らとっしょに、地域経済が潤う、魅力ある林業にしていきたいです。



GXリーグ参画

北越コーポレーションは、経済産業省が主導する「GXリーグ」へ参画しました。

「GXリーグ」とは、企業が2050年カーボンニュートラルの実現と社会変革を見据えた取り組みを実施し、「グリーントランスフォーメーション」への挑戦と現在および未来社会における持続的な成長実現を通じ、経済社会システム全体の変革のための議論と新たな市場の創造のための実践を行う場です。

当社グループは、「ゼロCO₂ 2050」の実現に向けた取り組みを促進すると共に、GXリーグの参画企業や団体と協働し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



自然関連財務情報開示タスクフォース (Taskforce on Nature-related Financial Disclosures)

自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)は、事業活動を通じて自然へのマイナスの影響をプラスに転じるため、自然資本及び生物多様性に関するリスクや機会について統一した情報開示の枠組みを構築する国際的な機関です。2023年9月にはTNFDの最終提言vol.1.0が正式に発表されました。

当社グループは、気候変動のみではなく、生物多様性についても取り組んでまいります。

東京農工大学で行われた 第65回「農工祭」にHalopackを提供

Halopackは、紙と易剥離フィルムで製造された食品等を入れる環境配慮型紙パッケージです。使用後に紙部分と汚れたフィルム部分を分離して紙の部分をリサイクルすることができます。

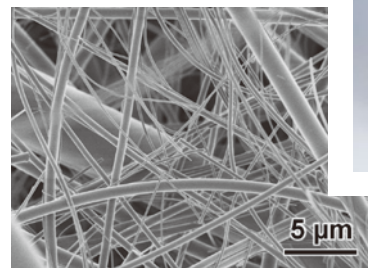
北越グループの北越パッケージ(株)と三菱商事パッケージング(株)の共同で2023年11月10日～12日にかけて開催された東京農工大学の第65回「農工祭」に提供し自転車部をはじめ学内7団体の模擬店で使用していただきました。



脱フッ素エアフィルタ用ろ材が 空気清浄協会の会長奨励賞を受賞

当社では、環境中での残留性、生物蓄積性などが懸念されているPFAS*を一切使用しないエアフィルタ用ろ材を開発し、市場ニーズに対応した製品を強化しています。この度、2023年4月18日～19日にかけて開催された「第40回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会」において、当社が発表した「有機フッ素化合物(PFAS)不含有ろ材の開発」が会長奨励賞を受賞いたしました。

*有機フッ素化合物: 難分解性物質であることから環境中に残留性があり、生体蓄積性も高いため世界的に規制が強まっている化学物質



▲脱フッ素エアフィルタ用ろ材

編集後記

今号の作成にあたり、岩手県内にある外川社有林と丸泉寺社有林を訪れ、森林状況について現地確認を行いました。社有林の澄んだ空気と表紙のような真っ直ぐ空に伸びた木々、様々な動植物を直接感じ、改めて森林の豊かさを体感することができました。

私たち北越グループは、計画的な森林管理を運営し、この豊かな森を未来に繋げてまいります。

この通信誌の用紙にはミューマット-F 157g/m²を使用しております。



KINKON vol.20

2023年12月発行

【発行】

北越コーポレーション株式会社

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-2

TEL(代):03-3245-4500 FAX:03-3245-4511

<https://www.hokuetsucorp.com>

ZERO
CO₂
2050™

